

10期

アクティブシニアをめざす科

～そして生きがい再発見～

日時： 6月9日（木）10時～12時

場所： 豊中市地域共生センター

学習テーマ 「私たちのコミュニティづくり」

講師： 中山 徹 先生 （奈良女子大学大学院教授）

○都市計画が専門の中山先生は、いまの日本が人口減少社会のただなかにある事を踏まえた地域のコミュニティ作りの必要性について話されました。



内容

① 2008年から日本は人口減少社会に転じた。

西暦1900年の人口は4500万人だったが、2008年の1億2800万人をピークに減り始めた。移民を認めなければ、政府予測では100年後には約5000万人となる。

② 将来も人口減少は止められない。

団塊の世代が生まれた頃は、年間250万人が出生したが、今は年間80万人。政府の支援によって出生率が上

がったとしても、年少人口が少ないため、今世紀末までは人口は減り続けるだろう。

③ 高齢化社会でのまちづくり

人口減少によって、全国の空き家比率は13%に増え、コミュニティが衰退している。そんな状況の中で、大阪湾での埋め立て造成や、箕面や茨木でのニュータウン開発、タワーマンションの建設が進んでいるが、果たして大丈夫なんだろうか。考え直した方がいいのではないか。

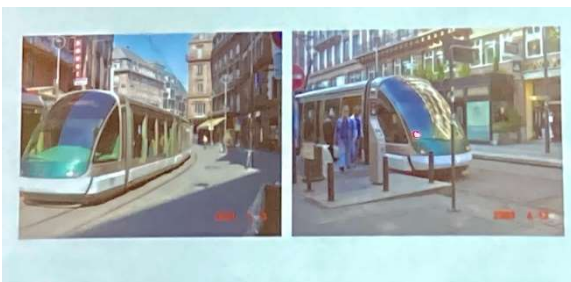
④ アメリカや韓国、フランスの事例

デトロイト近郊、人口19万人のフリント市は空き家比率が2割を越え、治安が悪化。

高齢者と失業者が多いため、税収も減って行政も停滞。地域の衰退が止まらない。他方、韓国の首都ソウル市を横切る清溪川（チョンゲチョン）では、川を埋め立てて建設した高速道路を2000年代に撤去し、川と緑を再生させ、市民の憩いの場となっている＝写真



右。また、フランスなど欧州の都市では、おしゃれで低床の新型路面電車（LRT）＝



写真左＝やバスの無料化の動きが広がり、高齢者を含めた市民の足となっている。

⑤ 災害に強いまちづくり

阪神淡路大震災の時、倒壊した家の下敷きになった人の多くを救ったのは家族とか近所の人たちだった。南海トラフ地震が起こる確

率は高い。消防や警察ではなく、住民や地元企業による地区防災計画づくりが大事だ。高層ビルや道路をつくるだけでいいのだろうか。住民によるコミュニティ活動がなければ、地域は活発にならない。

最後の質疑で、「自治会に参加したくない住民が増えている」との声に対して、中山先生は、『自分だけでやっていける』と思いがちだが、実際は、子育てにしる、高齢者の見守りにしる、地域住民が協力し、助け合わないと生きていけない、という事をみんなが知ってほしい」と改めて力説された。

さまざまな壁はあるが、地域のコミュニティづくりの大切さを改めて感じた。

午後：13:00～15:00

- ・ラジオ体操、午前の講演について班ごとに振り返った後、11月30日に開催される「ふれあい交流祭」や年度末の成果発表会に向けてのテーマについて、班ごとに議論。一班は、豊中市など地域に根付いた社会福祉協議会の活動、二班は、能勢街道の七福神について調査研究する方向となりました。

(担当協阪)